

論文

韓国児童文学成立期の探究と1921年前後の方定煥の足跡  
—— 伝記的考察と史跡踏査を中心に

A Study of the Establishment of Korean Children's Literature and  
the 'Footprints' of Bang Jeong-hwan around 1921: Focusing on  
Biographical Considerations and Historic Site Reconnaissance

大竹 聖 美

In the early 20th century, when Bang Jeong-hwan was born, Korea was in a state of flux. Domestically its existing social order and traditional values were being re-examined, and an era of world-historic imperialism saw a struggle for self-determination and national identity. Korean children's literature is representative of this era.

This paper explores the 'footprints' and achievements of Bang Jeong-hwan mainly through field reconnaissance in Korea as part of the study of the establishment of Korean children's literature. The exploration of historical sites related to Bang Jeong-hwan and the Japanese translation of the inscriptions engraved on them are presented for the first time in this article. Together with "Materials / Bang Jeong-hwan and Chronology of Important Matters Related to the Establishment of Korean Children's Literature (Otake, January 2021 Edition)", it will be an effective stepping stone for future research on Korean children's literature.

キーワード：韓国児童文学、方定煥、セクトン会、天道教、オリニ

1. はじめに

小波(ソバ)<sup>i</sup>・方定煥(パン・ジョンファン、1899年11月9日～1931年7月23日)は「韓国児童文学の父」あるいは「韓国の子どもたちの父」として敬愛される近代韓国児童文学の開拓者で、先駆的人権運動家である。ソウル市内のオリニ(子ども)大公園<sup>ii</sup>には大きな銅像が立てられており、子ども向けの偉人伝記全集でも定番で、ある種伝説化された英雄である。韓国初の本格的児童文芸誌『オリニ』<sup>iii</sup>の創刊をはじめ、口演童話会、少年問題講演会、児童芸術講習会、少年指導者大会などを主催し、啓蒙運動、児童文化運動、児童文学運動の指導者とし

て韓国の児童文学史、教育史に特筆される。今回は、韓国児童文学の開拓者である方定煥の1921年前後の足跡をたどりながら、方定煥の仕事や精神がいかに現代韓国において顕彰され継承されているかを現地踏査し、併せて伝記的研究として年表の作成を行いながら整理する。

2. 方定煥はどのように顕彰されているか

図1は、ソウルのオリニ大公園にある小波・方定煥の像である。1971年7月23日にセクトン会によって南山に建立されたのち、南山のオリニ会館移転に伴い、1987年5月3日オリニ大公園に移設された。



図1 ソウル・オリニ大公園にある小波・方定煥像 (2017年3月大竹撮影)

セクトン会とは、方定煥が中心となって1923年3月16日に東京で発足した「少年問題研究会」である。1923年当時、方定煥は東京にいた。そして、同じく東京に留学していた朝鮮人留学生たちを集め、少年問題研究会・セクトン会を発足させたのである。1923年3月16日というのは、創立準備会にあたり、参加した人は方定煥のほか、姜英鎬、孫晉泰、高漢承、鄭順哲、趙俊基、秦長燮、丁炳基など8人で、その後、尹克榮、曹在鎬、崔晉淳、馬海松、鄭寅燮などが加わっていく。すべて当時東京で活動していた留学生たちである。

ほぼ時期を同じくして、方定煥は朝鮮初の本格的な児童文芸誌『オリニ』を刊行した。1923年3月20日創刊である。

セクトン会は、この『オリニ』誌の同人といえ、1923年5月1日に東京で正式な創立発会式を執り行っている。この日は、韓国で現在も国民の祝日として祝われている「オリニナル(こどもの日)」の第一回式典が開催された日でもある。セクトン会は、『オリニ』誌や「オリニナル」など朝鮮の子どものための文化運動(「オリニ運動」と呼ばれる)を主導した。



図2 方定煥像(図1)の後に設置された方定煥の業績を讃える碑(2017年3月大竹撮影)

そうした歴史的背景を持つセクトン会が、戦後あらためて方定煥の業績を讃えて建てたのが図1の像であり、その背後の石碑には、図2のように方定煥の業績が刻まれている。内容は以下の通りだ。

オリニの永遠の友、小波方定煥先生  
(1899～1931)

小波方定煥先生はオリニのために一生を捧げてくださった有難い方だ。先生は我が国が日本から抑圧されていたあの困難な時代にハンゲルを使ってオリニ雑誌を作っただけでなく、演劇、お話会、講演会などオリニのためのたくさんのことをなされた。

特に「オリニ」という言葉を最初に使い、「オリニナル」を作ったことと、1923年春、日本の東京で、志を同じくした若者たちと共にセクトン会を組織し、オリニ運動の先頭に立ったことは、小波方定煥の最も目立った功績といえる。

33歳で惜しくも生涯を閉じたオリニの友、小波！先生のオリニへの愛・国への愛は、彼が始めたセクトン会とともに永遠に引き継がれていくことでしょう。(拙訳)

この碑文の中で顕彰されている「日本から抑圧されていたあの困難な時代にハンゲルを使ってオリニ雑誌を作った」というのは、1923年3月創刊の『オリニ』誌のことである。また、子どもを意味する「オリニ」という言葉を最初に使ったのは、1920年8月に刊行された雑誌『開闢』3号に掲載された「オリニノレ（子どもの唄）灯りをともし人」（ロバート・ルイス・ステューブソンの『子どもの詩の園』（A Child's Garden of Verses, 1885）に収録されているThe Lamplighterの翻訳）<sup>iv</sup>である。

「オリニナル（こどもの日）」やオリニ運動を推進するセクトン会を作ったのは、方定煥が東京に滞在していた1920年から23年の仕事であるから、韓国児童文学の成立過程を知るうえで、あらためてこの時期の重要性に気づかされる。

現在も韓国の首都ソウルにある「オリニ大公園」に行けば、この方定煥の像とともにその業績が刻まれた石碑を見ることができ、方定煥の朝鮮の子どもたちへの愛と民族文化への想いを感じることができる。そして、こうした方定煥の精神を継承し、彼を敬愛する韓国の人々の心情と方定煥に代表される韓国児童文学の特性を感じるのである。

### 3. 1920年、方定煥の渡日とその目的

方定煥は、1920年6月に創刊された『開闢』の東京特派員として同年9月に東京に派遣されていた。『開闢』は独立運動後に赴任した斎藤實総督による文化統治政策によって次々と誕生した当時を代表する言論媒体の一つである。『朝鮮日報』（1920年3月5日創刊）、『東亜日報』（1920年4月1日創刊）なども同時期の創刊である。

『開闢』を刊行した開闢社は、独立運動を主導した孫秉熙が第三代教主の天道教による運営である。そして、方定煥は、この孫秉熙の娘婿である<sup>v</sup>。つまり、雑誌『開闢』の東京特派員として渡日した方定煥は、実のところ雑誌『開闢』のバックボーンである天道教から託された

もう一つのミッションがあったに違いないのである。

その証拠に、1921年1月16日には早稲田大学近くの鶴巻町大扇館旅館で「天道教青年会東京支会」の最初の集いを開いている。そして、2月13日に正式に創立総会を開催し、方定煥は天道教青年会東京支会初代会長に就任した<sup>vi</sup>。つまり、方定煥は渡日後半年間は『開闢』の東京特派員として記事を書いたり、『開闢』のバックボーンである天道教の東京における活動拠点となる天道教青年会東京支会の設立と会長としての仕事を行っていたのである。

一般に、方定煥は、1919年の3・1独立運動で検挙された後東京に留学し、当時東京で隆盛していた童話や童謡の児童文化を学んだとされているが、渡日の表向きの目的は留学ではなく、雑誌『開闢』の特派員であり、その背後にある天道教の理念に基づく活動だったということはきちんと把握しておかなければならない。

### 4. 1921年、東京と京城の天道教の動き

方定煥が東京で天道教青年会東京支会を創立させた頃、朝鮮では天道教中央大教堂が竣工し



図3 天道教中央大教堂。ソウル鍾路区慶雲洞88番地。2017年3月大竹撮影





図4 天道教中央大教堂1階ホール 2017年3月大竹撮影



図5 天道教中央大教堂(前壇) 天道教の印である「輔国安民」がレリーフされている。2017年3月大竹撮影

た。日本人の中村興資平<sup>vi</sup>による設計で、赤煉瓦に白い花崗岩がアクセントとなった美しい近代建築物である。1898年に建築された朝鮮初のカトリック教会堂である明洞聖堂と、1926年建築の朝鮮総督府と合わせて、1920年代には京城三大建築物と呼ばれた。

1921年2月竣工の天道教中央大教堂は、多くの天道教信者の寄付により建設されたのだが、天道教第三代教祖・孫秉熙によって1918年に着工された後、翌19年の3・1独立運動資金としてもこの募金が使われたため、当初の予定より遅れての完成だった。

完成後は、天道教の宗教行事に限らず広く講

演会や芸術公演などに使用され、日本統治下の朝鮮における重要な集会所、公会堂として使用された。

方定煥もここで講演会を行っている。『開闢』の編集も行われた。現在、ソウル特別市有形文化財第36号に指定されている。

### 5. 天道教中央大教堂

現在、天道教中央大教堂が建つ鍾路区慶雲洞に行くと、その敷地周辺には、史跡を示す記念碑をいくつも目にする事ができる。

一つは、図6の「独立宣言文配付址」である。「3・1独立運動の偉業の為に天道教代表などが集まり、独立宣言文を検討し配布した場所」とある。



図6 「独立宣言文配付址」碑 2017年3月大竹撮影

また、「天道教中央総部」と示された門柱と対をなす門柱には、「開闢社址」のプレートが掲げられており、次のように刻まれている。

この址は、1920年6月25日に天道教から精神の開闢と社会の改造を唱えて抗日思想を鼓吹した総合月刊誌『開闢』（主筆、小春・金起田）を出版した新文化運動の揺籃だ。階級主義的傾向の金基鎮、朴英熙と民族主義的傾向の玄鎮健、金東仁、廉想渉

などが活動し、児童文学者、小波・方定煥（天道教第三代教祖・孫秉熙の娘婿）が我が国最初の児童文化運動団体であるセクトン会とオリニという呼称を一般化させた雑誌『オリニ』を創刊したところでもある。

光復50周年を迎え韓国文人協会が現代文学表徴事業の一環としてこれを刻む。

1995年9月30日

社団法人韓国文人協会 理事長 黄命  
SBS文化財団 理事長 尹世榮  
(拙訳)

1919年の3・1独立運動によって、天道教はカリスマの孫秉熙を捕らえられた代わりに、朝鮮総督府の文化統治政策への転換の波に乗って大きく発展していった。

3・1独立運動の翌年、1920年6月には『開闢』を創刊させ、9月には方定煥を東京特派員として派遣した。

1921年2月には朝鮮では天道教中央大教堂が竣工され、東京では方定煥によって天道教青年会東京支会が発足した。同年5月1日には金起田と方定煥、朴来弘が主導して、天道教青年会少年部の事業として「天道教少年会」が作られた。ここでは音楽や演劇、学習運動が行われ、のちのオリニ運動の基盤となった。こうした活動もみなこの天道教中央大教堂で行われたのである。

## 6. 東洋大学専門部に入学した方定煥

この間、方定煥は東京にいて、『開闢』の東京特派員として記事を書き、天道教青年会東京支会の活動をしながら、1921年4月9日に東洋大学専門部に入学している。そして詳細は別稿で考察するが、翌年の1922年3月30日には退学した。これは、東洋大学に照会し、現在も保管されている学籍簿で確認している。韓国では、方定煥は東洋大学哲学科に留学したとか、児童心理学科に留学したとか、聴講生だったとか、様々に言われているが、わずか1年ではあったが、東洋大学の当時の専門部に入学し、



図7 東洋大学教務部にて閲覧した学籍簿。2018年1月大竹撮影

在籍していた。

入学前の学歴欄には「漢洞公立学校」「入学 明治四十四年四月」「卒業 大正二年三月二十三日」とある。初等学校の学歴記録しかない状況での入学である。方定煥が在籍したのは当時の大学令による「専門部」であるので、現在の大学学士課程ではなく、各種専門学校に該当する教育課程であったと考えられる。初等学校卒業の学歴記録の提出だけで大学学士課程に入学することはできなかったのだろう。

そして、方定煥は、東洋大学に入学して早くも2か月後の6月には、夏休み期間を利用して朝鮮に帰郷している。慶雲洞の天道教中央大教堂はもちろん、全羅道や黄海道など朝鮮全土での巡回講演会を行った。そして11月末までの約半年間という長い期間を方定煥は朝鮮で天道教青年部東京支会巡回講演会講師として、また、天道教少年会の活動で公演童話会を開催しながら過ごした。

「方定煥の東京留学」と一般に言われるが、史料を丁寧に読み込むと、東洋大学専門部に在籍していたのは1年間で、そのうちの6か月は朝鮮で巡回講演会や公演童話会の活動をしていたことが分かる。現在の調査で明らかになった方定煥の足跡と関連する史実に関しては末尾の年表に整理した。

## 7. 方定煥の天道教少年会の活動

1921年4月に東洋大学専門部に入学した方定煥であったが、6月には朝鮮に帰郷し、朝鮮全土を巡回講演行脚して回り、天道教少年会の活動を行っていた。方定煥の活動は、当時の『東亜日報』など言論媒体によって盛んに報道されており、李相琴の『東亜日報』の調査で次のように明らかにされている。

(前略)『東亜日報』の記事では、「天道教少年会では、去る11日は日曜日であったから会員百人余りが北岳山に登って、色々面白い遊戯をした」(1921年9月11日)と報道する。

歌劇に関する記事もやはり『東亜日報』に見出すことができる。「天道教少年会の主催で次の日曜日、午後七時から慶雲洞天道教堂で「童話歌劇大会」を開く。入場料金は20銭均一で、少年は半額だ」(1921年11月19日)。さらに、「天道教少年会主催の歌劇大会は予定と同じように19日午後七時半に慶雲洞天道教堂の中で開かれたが、先に少年会員合唱隊の合唱があり、その後で「松とからす」という童話劇があって、その次は「盲の動物」という滑稽な派閥勢力の人心を警戒する話があり、聴衆に多くの感動を与えた。次は「姉さんを探しに」というかわいそうな少女歌劇などがあって、興味津々の中に会は終わり、このようなことをするのは初めてのことだ」(1921年11月21日)。このように盛況の歌劇大会を報道している。

マリオの話はイタリア作家デ・アミーチスの作品「クオレ」の一部分、「難破船」の主人公のことをいう。「難破船」は1922年に小波が単行本として出版した「愛の贈り物」に収録された童話だ。この時期にすでに「難破船」を翻訳したり、少なくとも好ましい作品として念頭に置いていたのである。当時、会員100人余りにもなる少年会

の集いで、小波の口演童話は聴衆を感動させて涙を流させていた。

小波が天道教少年会会員たちと一緒にしたことは、李定鎬によって、はっきりと証言される。「『オリニ』を発行する今日まで」を『オリニ』第1号から連載した彼の文中、第3号に日付別に記録されている。9月11日—北岳登山会を開いたこと、9月16日(陰暦8月15日)—翠雲亭の松林で秋夕のお月見をしたこと、9月初めての侍日(訳者注:天道教の宗教行事)(侍日は日曜日であるから4日になる)—方定煥の「難破船」童話大会、9月18日—白頭山講演会を行つたと記録する。この白頭山講演会は天道教少年会の招請で東亜日報特派員ミン・テウオンが白頭山行をした話で、この日金起田の「朝鮮少年の社会的地位」という講演もあった。

天道教少年会は創立時の計画のとおり一週間に二回、木曜日と日曜日の午後に集会を行つたし、行事も活発に開いていた。小波はソウルに留まっている間、彼らと多くの時間を一緒にしたのだ。彼の瞬発力ある弁舌、児童劇指導、遊び指導も、優れた口演童話は少年会会員の心を完全に惹きつけただろう。そのため、彼らは未熟な文で小波に熱心に手紙を書いて送ったのではないだろうか。これは誰かによってさせられてできるようなものではない。(이상금『소파 방정환의 생애—사랑의 선물』한림출판사, 2005年、273～275頁)(拙訳)

1920年代当時、京城の三大建築物と言われた天道教中央大聖堂は、周囲の背の低い朝鮮韓屋の中にあつて、赤煉瓦の尖塔がすくとそびえ立ち、近代のシンボルだったのではないだろうか。

そこで行われた「童話歌劇」「少女歌劇」「童話劇」「少年合唱」「口演童話」はどれだけ新しい風を吹き込んだことだろう。朝鮮のくオリニ

(子ども) > たちの興味津々な眼差しや熱狂が目に浮かぶようである。新しく芽吹く若芽のような生命の輝きと未来への希望を感じる。

## 8. 世界オリニ運動発祥地

慶雲洞の天道教中央大聖堂のある敷地の東角には「世界オリニ運動発祥地」の碑が建てられている。塔のように背の高い石碑の後部には、方定煥の言葉が刻まれた石板が設置されている。

大人は子どもを  
押さえつけないようにしましょう。  
三十年四十年遅れた昔の人たちが  
三十、四十年先の人の  
首根っこを押さえて引きずるようなことは  
やめよう。  
古い人は新しい人のために  
支えてのみ  
彼らの後ろに従ってのみ  
明るい方に進むことができ  
新しくなることができ  
墓場を避けることができるのだ。  
1930年7月  
オリニ人権運動家 方定煥

(拙訳)

先の韓国文人協会による「開闢社址」では、「児童文学」とされ、「我が国最初の児童文化運動団体であるセクトン会とオリニという呼称を一般化させた雑誌『オリニ』を創刊した」とされていた方定煥だが、ここでは、「オリニ人権運動家」と記されている。天道教の敷地に建立された記念碑であるから、天道教本部による方定煥認識として、「オリニ人権運動家」と記したのであろう。

天道教の根本思想は「人乃天」思想(人はすなわち天である。人間の中に神性を見る思想)である。「天道教少年会」や「セクトン会」などを通してオリニ運動を展開した方定煥については、天道教としては、世間一般に言われる韓国



図8 天道教中央大聖堂と「世界オリニ運動発祥地」の碑。2017年3月大竹撮影

児童文学の創始者としてではなく、天道教の教義に基づくオリニ人権運動家であると明言しなかったに違いない。

韓国児童文学の出発点とされる『オリニ』誌は、天道教の出版部である開闢社からの刊行である。精神の開闢、すなわち、子ども一人一人の尊厳と平等、精神の自由を謳い、家父長制や儒教の旧弊、旧い子ども観から解放させ、植民地下の民族文化の抑圧から独立していこうという新しい時代と精神の開闢を人権運動と言っているのだろう。

## 9. おわりに

方定煥が生まれた20世紀初頭の朝鮮は、既存の社会秩序や伝統的な価値観を問い直す国内の問題と、世界史的な帝国主義の外圧に抵抗する民族自立の問題と、内外両面の問題を克服しようとした民族運動の時代であり、新文化勃興の時代だった。韓国児童文学もそうした文化運動の一環として生まれている。

本稿は、韓国児童文学成立期研究の一環として、主として方定煥の足跡と業績を韓国で



の現地踏査を通して探究した。方定煥にまつわる史跡踏査やそこに刻まれる碑文の日本語翻訳が活字になるのは、管見では初めてのものである。以下に整理した「資料：方定煥ならびに韓国児童文学成立期関連重要事項年表（大竹作成、2021年1月版）」と共に、今後の韓国児童文学研究の有効な手掛かりになるだろう。

資料：方定煥ならびに韓国児童文学成立期関連重要事項年表（大竹作成、2021年1月版）			
主要参考文献：			
이상금 『소과 방정환의 생애—사랑의 선물』 한림출판사, 2005年			
민윤식 『방정환 평전』 스타북스소과, 2014年			
방정환 『서울 쥐의 서울 구경』 길벗어린이, 2019, pp.46-47			
年月	事項	備考	方定煥の年齢
1899年 11月9日	方定煥誕生	夜珠岬（現、鍾路区唐珠洞。慶照宮前。フォーシーズンズホテル前に碑がある）で魚と穀物を仕入れて販売する方慶珠の長男として誕生。	0歳
1905年	方定煥、私立普成小学校幼稚班入学		5歳
1908年	方定煥、「少年立志会」設立	少年演説討論会活動を主導。	8歳
1909年	方定煥、梅洞普通学校入学	現、鍾路区通義洞。	9歳
1911年	方定煥、漢洞公立学校に転校	西大門区にあった公立初等学校（1896年開校） 1913年卒業。	11歳
1913年	方定煥、善隣商業学校入学		13歳
1915年	方定煥、総督府土地調査局写生字として就職	月給5ウォン。 写生字：文字を写し書きする職業。	15歳
1917年 4月8日	方定煥結婚	天道教第3代教主孫秉熙の三女溶嬋（15歳）と結婚し、孫秉熙の嘉会洞の家に同居する。	17歳
1917年 5月6日	方定煥の実母死去		18歳
1919年 1月	方定煥、『新青年』創刊	青年文芸誌	19歳
1919年 3月	独立運動（三・一運動）	天道教は、三・一独立運動の中で主導的な役割を担っていた。教祖の孫秉熙ならびに教団指導層が拘束される。その後も統治者側から要注意団体として監視され続ける。	
1919年 5月20 ～24日	柳宗悦「朝鮮人を想ふ」『読売新聞』に連載	1919年5月11日執筆。	
1919年 8月	斎藤実新総督就任	武断政治から文化政治に転換。 結社の自由と報道機関の活動がある程度許される。	
1919年 9月2日	「天道教青年教理講演部」結成	天道教教理の研究宣伝と朝鮮新文化の向上発展を目的とした。	



1919年 9月7日	方定煥、天道教役員になる。		
1920年 3月5日	『朝鮮日報』創刊		20歳
1920年 4月1日	『東亜日報』創刊	朝鮮総督府の文化政治への転換を背景に創刊される。社是「民主主義・民族主義・文化主義」	
1920年 4月12日	柳宗悦「朝鮮人を想ふ」朝鮮語翻訳『東亜日報』掲載	1919年5月に『読売新聞』に掲載されたものの朝鮮語訳。	
1920年 4月19日、 20日	柳宗悦「朝鮮の友に贈る書」朝鮮語訳『東亜日報』連載	1920年4月10日、我孫子で執筆されたものの朝鮮語訳。検閲により、大幅に修正している。その後、2020年6月16日の英字新聞Japan Advertiserに抄訳が掲載される。『改造』に日本語で掲載されたのも6月号。	
1920年 4月	「天道教青年教理講演部」を「天道教青年会」に改編	「天道教少年会」の発足につながっていく。	
1920年 5月	柳宗悦夫妻、朝鮮旅行	柳兼子音楽会、滞在した10日間（京城）で7回開く。柳宗悦講演会、滞在20日間で4回開く。	
1920年 6月	柳宗悦「朝鮮の友に贈る書」	『改造』6月号 『東亜日報』（4月19日、20日）に先に朝鮮語版が掲載される。	
1920年 6月25日	『開闢』（開闢社）創刊	朝鮮初の本格的な総合誌。1920年代朝鮮を代表する雑誌。印刷は崔南善の新文館。編集者：李敦化、主筆：金起田、主要執筆者：朴達成、車相謙、方定煥など。	
1920年 8月	「オリニノレ（子どもの歌） 灯りをともし人」発表	『開闢』3号（PP.88～89） 布徳61（1920）年8月15日斎洞にて、と記されている。（ソウルの自宅で執筆した） 「オリニ（こども）」という純粹朝鮮語（ハングル表記）が活字で公に発表された初の事例。	
1920年 9月	方定煥、開闢社の東京特派員として派遣される	方定煥は開闢社創設時の中心人物だった。渡日前、善成専門学校法学科学生身分で「朝鮮学生大会巡回講演団」活動をした。	
1921年 1月	柳宗悦「朝鮮民族美術館の設立に就いて」『白樺』		21歳
1921年 1月16日	「天道教青年会東京支会」の最初の集まり	東京早稲田鶴巻町302、大扇館旅館にて。	
1921年 2月	「王子とつばめ」	『天道教会月報』126号 方定煥最初の翻案童話 斉藤佐次郎「王子とつばめ」『金の船』1920年5月号からの翻案（李相琴、李姪炫が指摘）	
1921年 2月	天道教中央大教堂竣工	中村與資平設計。ソウル特別市鍾路区慶雲洞88番地 現在、ソウル特別市有形文化財第36号指定。	
1921年 2月13日	「天道教青年会東京支会」創立総会	初代支会長：方定煥	
1921年 2月16日	関元植暗殺事件	『時事新聞』発行人、「国民協会」（親日団体）会長朝鮮人の参政権を求めて参議院に請願書を提出するために来日。東京ステーションホテルで暗殺される。 方定煥、検挙、拘束（20日程度）、取り調べを受ける。	
1921年 4月9日	方定煥、東洋大学専門部文化学科に入学	専門部（1・2科）の学籍簿に記録あり。 1922年3月30日退学。 東洋大学に保管されている学籍簿で確認。	

1921年 4月	青年会の布徳部部署に 幼少年部を置く(5月1 日発足の「天道教少年 会」の前身)	7歳から16歳の男女少年を対象。	
1921年 5月1日	「天道教少年会」設立	5月1日には金起田と方定煥、朴来弘が主導して、天道教青年 会少年部の事業として「天道教少年会」を作った。 音楽、演劇、学習運動を行い、オリニ運動の起点といえる。	
1921年 5月	柳宗悦、「朝鮮民族美術 展覧会」開催	神田で開催。 「朝鮮民族美術」という言葉が使用された初めての展覧会。	
1921年 6月	方定煥、朝鮮に帰郷	東洋大学の夏休み期間を利用。巡回講演会実施。	
1921年 6月17日 ～7月5日	巡回講演会	天道教青年会東京支会会員による巡回講演会(慶尚道、全羅道、 忠清道に分かれ、方定煥は全羅道を巡回する)実施。	
1921年 7月11日 ～7月末	巡回講演会	黄海道、平安道、咸鏡道に分かれ、方定煥は黄海道を巡回 する。	
1921年 11月10日	方定煥、鍾路警察署に 検挙、拘束される。	1921年11月12日、李承晩、地齋佐がワシントンで開催される 太平洋会議に独立請願書を提出したことに関連して取り調べを 受ける。朴達成も拘束される。	22歳
1921年 11月29日	方定煥、渡日		
1921年 12月	方定煥『愛の贈り物』執 筆	「辛酉年末に、日本東京白山下にて」前文に記載。	
1922年 3月30日	方定煥、東洋大学退学	1921年4月9日専門部文化学科入学。 東洋大学に保管されている学籍簿で確認。	
1922年 5月1日	方定煥が「オリニエナ ル(こどもの日)」を宣 言する。	天道教少年会創立1周年を記念した宣言。 この時には、「어린이의 날」というように「의」の字が入って いた。	
1922年 5月19日	孫秉熙死去	方定煥は帰国し、葬儀に参列している。	
1922年 7月7日	『愛の贈り物(사랑의 성 물)』開闢社	方定煥最初の童話集。この時期、もっとも普及し重版した。全 文ハングルでの世界名作童話の翻案集。	
1922年 7月	「朝鮮古来童話募集」	『開闢』28号広告	
1922年 8月	柳宗悦「失われんとす る一朝鮮建築のために」 『改造』9月号	『東亜日報』(8月24日～28日、全4回連載)に朝鮮語訳が掲載 される。	
1922年 12月25日	天道教少年会講演	方定煥も演者に。1922年12月25日『東亜日報』記事に記載され る。	23歳
1923年 1月3日	方定煥翻案、アンデル セン「天使」	『東亜日報』掲載。	
1923年 1月4日	方定煥インタビュー記 事	『朝鮮日報』掲載。	
1923年 1月14日	童話劇大会	朝鮮初の童話劇大会。李定鎬『天道教会月報』149号、1923年 2月に記録。李一淳「朝鮮初有의 童話劇大会」『天道教会月報』 150号、1923年3月	
1923年 1月	「新たに開拓される<童 話>に関して——特に 少年以外の一般にむけ て——」	『開闢』31号、23頁掲載。朝鮮初の童話論。	

1923年 3月16日	少年問題研究会「セクトン会」結成	東京で発足。5月1日から活動開始。東京の朝鮮人留学生で結成（方定煥、孫晋泰、尹克栄、鄭順哲、高漢承、秦長燮、曹在浩、丁炳基。後に崔瑄淳、馬海松、鄭寅燮、李軒求、尹石重などが加わる）。『オリニ』が会報の役割。	
1923年 3月	方定煥「少年の指導に関して—雑誌『オリニ』の創刊に際して—」	『天道教会月報』150号掲載。	
1923年 3月20日	『オリニ』開闢社、創刊	朝鮮初の本格的児童文芸誌。3月1日発行予定だったが、検閲で遅れた。日本の『赤い鳥』や『金の船』＝『金の星』などと比較される。1933年廃刊。	
1923年 5月1日	第一回「オリニナル（子どもの日）」開催	金起田がソウルで「少年運動協会」発足し、オリニナルの式典を開催。方定煥は東京で「セクトン会」の創立発会式。	
1923年 9月1日	関東大震災		
1923年 10月	『新女性』開闢社、創刊		
1924年 4月	柳宗悦、「朝鮮民族美術館」設立		24歳
*継続作成中			

- \*本稿は、日本学術振興会科学研究費（基盤研究（C））、（課題番号：19K00535）「近代朝鮮少年運動と韓国児童文学成立期の研究」による研究成果の一部である。
- \*日本児童文学学会第59回研究大会（2020年11月15日）での口頭発表「『韓国児童文学』の形成過程—1920年代、方定煥の再話と翻案」を基に書き改めた。

## 参考文献

### <韓国語文献>

- ・『開闢』開闢社（1920年6月～1926年8月、通巻72号）
- ・『어린이』開闢社（1923年3月～1934年7月、通巻122号）
- ・李在徹『韓国現代児童文学史』一志社、1978年
- ・——『韓国児童文学作家論』一志社、1983年
- ・——『世界児童文学大事典』啓蒙社、1989年
- ・——「児童雑誌『어린이』研究」、『韓国児童文学研究』啓蒙社、1983年
- ・大竹聖美「두 사람의 소파—巖谷小波와 方定煥—（二人の小波—巖谷小波と方定煥—）」、(韓国) 韓国児童文学学会『児童文

学評論』第26巻（第1号）、2001年

- ・ 이상금 『소파 방정환의 생애—사랑의 선물』한림출판사、2005年
- ・ 조성운 『소년운동을 민족운동으로 승화시킨 방정환』역사공간、2012年
- ・ 엄희경 『소파 방정환과 근대 아동문학』경진、2014年
- ・ 민윤식 『방정환 평전』스타북스소파、2014年

### <日本語文献>

- ・ 李相琴「方定煥と「オリニ」誌—「オリニ」誌刊行の背景—」、大阪国際児童文学『外国人客員研究員 研究報告集1995～1996』1997年
- ・ ——「日本と韓国にける児童文化の橋～韓国オリニ文化をとおして考える～」、大阪国際児童文学『外国人客員研究員 研究報告集

- 1995～1996』1997年
- ・ 李在徹「韓国児童文学の歴史と現状」、児童文学者協会『日本児童文学』1990年6月号
  - ・ ———「1920年代の韓半島の児童書——児童雑誌を中心にして」、『子どもの本・1920年代展図録』1991年
  - ・ ———「韓日児童文学の比較研究(1)」、大阪国際児童文学『外国人客員研究員 研究報告集1989～1990』1993年
  - ・ 李姪炫「方定煥の児童文学における翻訳童話をめぐって—「オリニ」誌と「サランエソナムル(愛の贈り物)」を中心に」大阪大学大学院言語文化研究科修士論文、2004年
  - ・ ———「方定煥の翻訳童話研究—『サランエソナムル(사랑의 선물)』を中心に」大阪大学大学院言語文化研究科博士論文、2008年
  - ・ ———「巖谷小波の「お伽噺」から方定煥の「近代童話」へ—方定煥の翻訳童話「妖術王アア」の比較考察」、梅花女子大学大学院児童文学会『梅花児童文学』18、2010—2011年
  - ・ 金志映「方定煥と翻案童話「王子と燕」、日本比較文学会『比較文学』54、2011年
  - ・ 金成妍「越境する文学—朝鮮児童文学の生成と日本児童文学者による口演童話活動—」九州大学大学院比較社会文化学府・日本社会文化専攻博士学位請求論文、2008年
  - ・ 金永順「植民地時代の日韓児童文学交流史研究—朝鮮総督府機関紙「毎日申報」子ども欄を中心に—」梅花女子大学大学院博士学位請求論文、2006年
  - ・ 大竹聖美『植民地朝鮮と児童文化』社会評論社、2008年
  - ・ ———「方定煥研究～誕生から10歳まで・幼少期の生家と時代背景：評伝『小波・方定煥の生涯——愛の贈り物』を読む～」、東京純心女子大学『紀要』第18号、2014年
  - ・ ———「方定煥と天道教——孫秉熙の三女との結婚まで～評伝『小波・方定煥の生涯——愛の贈り物』を読む～」東京純心女子大学『紀要』第19号、2015年
  - ・ ———「1919年前後の方定煥——<小波(ソパ)>の由来と3・1独立運動」東京純心大学『紀要』現代文化学部、第20号、2016年
  - ・ ———「韓国近代児童文学創成期における愛——方定煥の児童文学における愛」、東京純心大学キリスト教文化研究センター紀要『カトリコス』第10号、2017年
  - ・ ———「新文化運動と方定煥——李相琴『小波・方定煥の生涯——愛の贈り物』に見る天道教青年会発足と『開闢』創刊」東京純心大学『紀要』現代文化学部、第21号、2017年
  - ・ ———「方定煥の東京留学——李相琴『小波・方定煥の生涯——愛の贈り物』を読む」東京純心大学『紀要』現代文化学部、第22号、2018年
  - ・ ———「近代朝鮮における<童話>の形成過程——方定煥が翻案したイソップ寓話「ソウルねずみと田舎ねずみ」と創作童話「田舎ネズミのソウル見物」の考察——」東京純心大学『紀要』現代文化学部、第24号、2020年
  - ・ 仲村修『韓国・朝鮮児童文学評論集』明石書店、1997年
  - ・ 黄善英「交錯する童心——方定煥と同時代日本文学における「子ども」——」、東大比較文学会編『比較文学研究』88、2006年
  - ・ ———『「童心」の思想と詩法——日韓近代の童謡運動』東京大学大学院博士学位請求論文、2007年
  - ・ 前島志保「児童観史観の中の方定煥」東大比較文学・文化研究会『比較文学・文化論集』1996年
- 
- <sup>i</sup> 方定煥の号。小波と書いて、ソパと読む。日本の巖谷小波と区別するためにも、以下、小波と書いて<ソパ>と読む。
- <sup>ii</sup> ソウル特別市広津区陵洞路216
- <sup>iii</sup> 『어린이』開闢社、1923年3月創刊。1934年7月で一度廃刊となる。通巻122号。



- iv 大竹聖美「韓国近代児童文学創成期における愛——方定煥の児童文学における愛」、東京純心大学キリスト教文化研究センター紀要『カトリコス』第10号、2017年
- v 大竹聖美「方定煥と天道教——孫秉熙の三女との結婚まで～評伝『小波・方定煥の生涯——愛の贈り物』を読む～」東京純心女子大学『紀要』第19号、2015年
- vi 大竹聖美「方定煥の東京留学——李相琴『小波・方定煥の生涯——愛の贈り物』を読む」東京純心大学『紀要』現代文化学部、第22号、2018年
- vii 1880～1963年。静岡県生まれ。東京帝国大学建築学科卒業。朝鮮、旧満州、静岡県などで銀行や公共建築の設計をする。徳寿宮美術館（1937年竣工。当時は李王家美術館）も中村の作品。